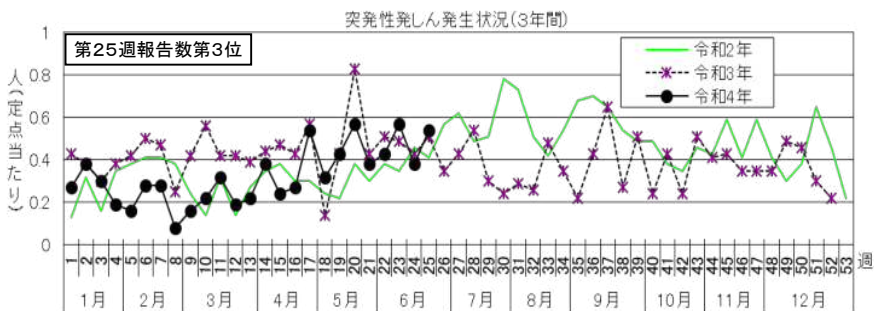
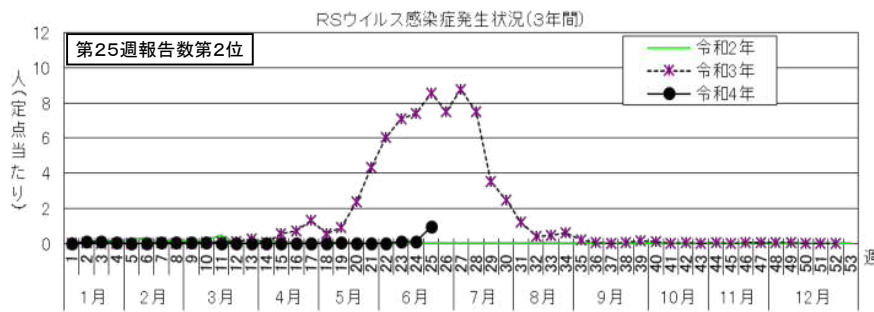
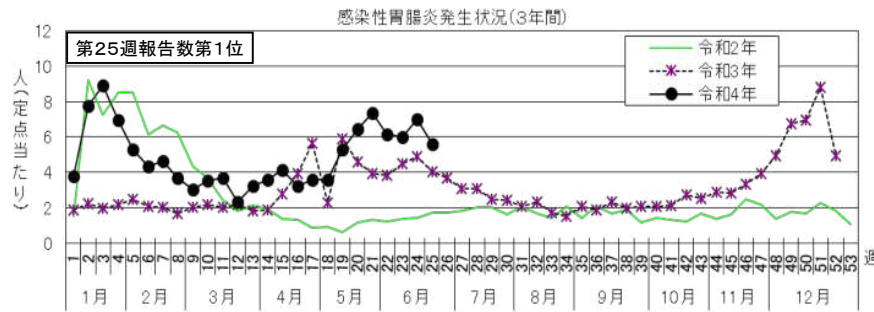


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年6月20日（月）～令和4年6月26日（日）〔令和4年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) RSウイルス感染症 3) 突発性発しんでした。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.59人と前週（7.00人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.95人と前週（0.11人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.54人と前週（0.38人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

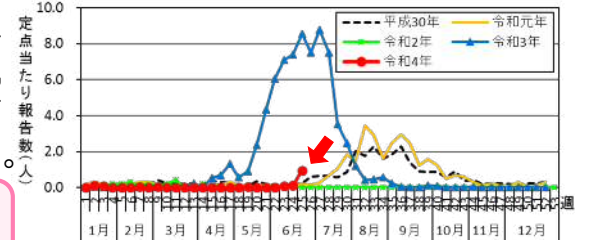


RSウイルス感染症の報告数が急激に増加しています！

川崎市における令和4年第25週（6月20日～26日）のRSウイルス感染症の患者報告数が、定点当たり0.95人となり、先週から急増しています。昨年は5月中旬から報告数が急増し、初夏にもかかわらず大きな流行となったため、今年も発生動向には注意が必要です。

また、RSウイルス感染症は、通常2歳までにほとんどの児が感染するといわれていますが、第25週の川崎市における報告では、3～5歳児が31.4%と、昨年と同様に年長児にも多く発生がみられます。RSウイルス感染症は、早産児やリスクの高い基礎疾患を有する児が感染すると重症化することがありますので、周囲の流行状況に御注意ください。

川崎市におけるRSウイルス感染症発生状況(5年間)



学校・保育園等欠席者サーベイランス
【RSウイルス感染症と診断された保育園児報告数※】
※在籍者100人当たり



川崎市感染症情報発信システム (KIDSS)

RSウイルス感染症とは

【感染経路】

飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

2～8日（典型的には4～6日）

【症状】

発熱・咳・鼻汁等の風邪様症状

多くは軽症で済みますが、細気管支炎や肺炎を起こし、喘鳴や呼吸困難などの症状が出現するお子さんもいます。

